

荒牧町だより

第164号
荒牧町自治会
広報委員会

【自治会定期総会のお知らせ】

自治会では、平成28年度を迎えるにあたり、定期総会を開催いたします。

記

◇日時 平成28年3月12日(土) 午前9時30分

◇会場 荒牧町公民館

◇協議事項

- 一、平成27年度事業報告及び収支決算報告
- 二、平成27年度会計監査報告
- 三、平成28年度役員の選出について
- 四、平成28年度事業計画(案)及び予算(案)について
- 五、その他

(*定期総会資料は、各組長より
全世帯に配布いたします)

【平成28年度第1回組長・

地区代表会議のお知らせ】

記

◇日時 平成28年3月19日(土) 午前10時

◇会場 荒牧町公民館

◇議題

- 一、平成28年度行事予定・集金予定について
- 二、荒牧町自治会執務時間、時間外連絡、担当地区代表について
- 三、自治会費の集金、募金の集金について
- 四、会計監査委員の選出について
- 五、その他

(*平成28年度の自治会役員として大切な会議
ですので、是非とも出席をお願いします。)

心熱くなる一日 ~1月28日~ 新田不動明王祭

前日までの寒波が和らぎ、穏やかな境内に日輪寺新住職の読経が流れ、準備も整って、いよいよ古くから篤く信心されてきた不動明王祭の始まりです。

最初の参拝の方が見えると、堰を切ったように次から次へと、お不動様に手を合わせ、火災予防や家内安全などをお願いする人でいっぱいになりました。お正月のあいさつやお互いの健康を気遣う声など、狭い境内が大賑わいでした。雪をかき分け取ってきた140本の篠で作った旗もほとんどお渡しすることができました。また、福引、おでんやところてん、綿菓子などで交流も深まりました。杖をつきながらも「お不動様だけは絶対来る」という方もいて、町の穏やかな場面に微笑んだり、心が熱くなったりした一日でした。

多くの参拝者をはじめ、地区の組長さん、祭典の趣旨に賛同して下さった方々のご尽力に対し、祭典委員を代表して、心より厚く御礼申し上げます。

祭典委員長
小池 長一



参拝の人たち

廃品回収にご協力 ありがとうございました ~今年度の廃品回収完了、2月7日~

荒牧町子ども会育成会を中心に進められてきました廃品回収ですが、2月7日の第4回廃品回収を持ちまして、今年度は終了となりました。夏の暑い中、冬の寒い中、たくさんの方々のご協力で無事完了しました。それはこっちだ



回収協力車の長い列



何が当たるかな?



おいしいよ

なごやかに、にこやかに

「歌と踊りの集い パート4」

～1月23日(土) 長寿会～

今年で4回目を迎えたこの集い。いつも、なごやかでとてもいい雰囲気を作り出していきます。

演技する方と見聞きする方が一つになって楽しんでいる姿は、とても微笑ましく感じます。また、歌や踊りも年々磨きがかかり、どれも素晴らしい演技をみせてくれました。

この行事は、いつも明るく元気な荒牧町の長寿会を象徴するような行事と言えるでしょう。

中には90歳を超える方も元気に歌っていましたよ。



この中に90歳を超える方がいますよ

南橋地区ドッジビー大会

～2月7日 南橋中体育館～

南橋地区14町の代表選手が集まり、大人の部、子どもの部に分かれてゲームを楽しみました。

柔らかなフリスビーを使って、ドッジボールのようなルールで試合をします。当たっても痛くなく、また、予想外の飛び方をするためか、終始なごやかに楽しんでいました。



荒牧チームのみなさん

荒牧町たんけん no. 39

荒牧町の酒店



酒はコメとともにわれわれの生活の中に最も深くかかわっているものの一つと言える。幾つかの文献で調べてみると、先ず外国においては、トルコ東部に位置するアルメニア地方では、紀元前8000年頃には既にワインが造られていた。また、同じく紀元前1500年頃に書かれたといわれるギリシャ神話の中の酒の神様バックスが葡萄の木の栽培とワインの製法を教えたと言われている。

エジプト人が穀物から酒を造ることを知ったのは、5000年前以上のことであることが文献に残っている。

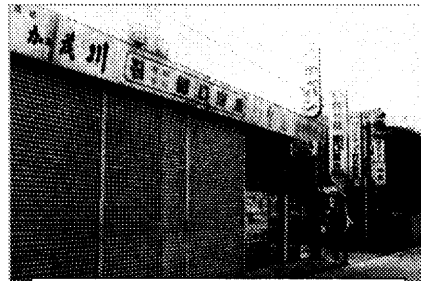
中国では最古の王朝であった夏(カ)の頃に酒が造られはじめたと記録されている。

翻って、我が国においては和銅5(712)年元明天皇に献上された。我が国最古の歴史書である古事記に「スサノオノミコト」が「ヤマタノオロチ」に酒を吞ませて退治したことは良く知られている。このように酒は我々の生活の中に非常に古くから結びついてきたと言える。

現在でも冠婚葬祭に特に酒は無くしてはならないものであり、勿論わが荒牧神社の祭祀にも御神酒(おみき)として欠くことができない。荒牧町においては造る立場として、下宿の関口博氏の先祖が江戸時代以降で酒造家として記録が残っているが、さて売る方の立場としての

酒店の記録は、仲々見当たらない。又先輩方に聞いても古い酒店は記憶に無いとの事であった。

明治以降では、下宿の関口酒店が最も古かったようであるが、残念ながら現在では廃業してしまった。



なつかしい関口酒店



角屋酒店(道の左側)

次に大正時代に開店した角屋酒店は、17号線から桃川小学校に入る丁度角にあった。しかしこの店も平成7年に閉店となり、以前からの荒牧町では一軒も酒店は見られなくなってしまった。

団地地区では、河内酒店を含めて2店が開業したが、河内酒店も2年前に惜しまれつつ閉店した。従って以前からの酒店は団地区内に残る一軒のみとなってしまった。

現在では、コンビニやスーパー等で気軽に酒は購入できるが、以前の酒店の開業には、かなり厳しい条件があったと聞いている。先ず、隣接する酒店との距離、周辺の人家や人口の数、店の広さや坪数、銀行への預金高、経験年数、毎日どの種類の酒が何本売れたのかの記録は常に税務署が検査に来るとの事であった。

荒牧町に限らず市内においても、古くからの酒舗が時代の流れとはいえ、閉店せざるを得なくなり、新しい形の店に変わってゆくのは誠に複雑な思いである。(赤松)